

## 公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	How nice !		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 9日		2026年 1月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数)
○従業者評価実施期間	2026年 1月 13日		2026年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援で落ち着いた環境での児童とのやり取り ・一人一人の児童に合った、支援方法で関わることができる	・児童の関心がある活動を行なうことで、良好な関係性を構築することから始めている  ・否定的な言葉は発しず、肯定的に受けとめている (ダメなことは『○○だから、こうするといひよ』という伝え方をしている)	・興味関心のあることはそれぞれ違うので、活動内容を増やしていく  ・専門性の高い支援をしていくために、勉強会への参加や他事業所でのヘルプにでて、児童への様々な関わり方を学ぶ機会を設ける
2	児童の長所や課題となる部分を十分に理解しやすい ・苦手なものをできるようによりかは、得意なところ、好きなことをとことん伸ばしていき、自己肯定感を高める支援	・新しい活動内容を提供し、興味関心が広がるように意識している ・活動を提案する際には、『失敗を未然に防ぐ』ようにしている。失敗してしまったときは、『こうならなかったらにはどうしたらいいかな?』と振り返り、学びの場に繋げている。失敗は決して悪いことじゃないことを日頃の支援の中で伝えている	・個々の児童の特性を生かして支援できることも個別支援の強みなので、特性を生かした支援を考えられるように、職員間でよく話し合い、支援の充実を図っていく
3	毎月実験活動実施 ・自然現象や化学反応に親しむ、体験的な学習を通じて、興味関心がさらに広がることをねらいとしている (例：スライム作りや紙漉き体験、磁石を使ったモーターカー作り等)	・化学薬品や顕微鏡等を使った化学実験を実施している ・新しい体験・発見を通じて、興味関心を広げていけるように 手順書を用意したり、わかりやすい資料を用意して工夫をしている。	・身近なものをテーマにした内容で実験をすることもあるが職員で案を出し合っ、幅を広げていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・送迎時の保護者への申し送りが十分にできていない	・児童の入室と退室時間が重なるため	・改善に向けて、支援終了時間の5分前にはお迎えに来てもらう等をお願いをして、申し送りの時間を十分に持つ ・申し送りが十分にできなかったご家庭については、連絡帳アプリで詳しくわかるようにしている
2	・職員の定着化が図れていない	・新人職員への育成・OJT体制が十分に整っていない	・定期的な面談を実施し、悩みや意見を把握・共有する機会を設ける ・職員間で学びを共有する機会を設け、支援の質の均一化につなげる
3	・保護者同士の交流が少ない	・個別支援で、時間も限られてくるため開催が難しい	・保護者会の開催は難しくとも、会報等を通じて保護者会の代わりとなるような情報を提供する ・現在、同じ時間帯に利用している児童の保護者同士の関わりが増えてきてはいる